

横浜市インフルエンザ流行情報 5号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザの報告が増加しています。

【概況】

2016年第50週(12月12日～18日)の定点※¹あたりの患者報告数は、横浜市全体で **7.71** と、前週よりさらに増加しています。鶴見区、神奈川区、港北区、都筑区では注意報発令基準値(10.00)を上回っています。報告された患者の半数以上は15歳未満です。また、入院が必要となる**重症化事例も増加**しています。

第50週の迅速診断キットの結果は **A型 89.1%**、**B型 10.8%**、**A・B型ともに陽性 0.1%**となっています。市内のウイルス検出状況では、ほとんどが **AH3型(A香港型)**です。

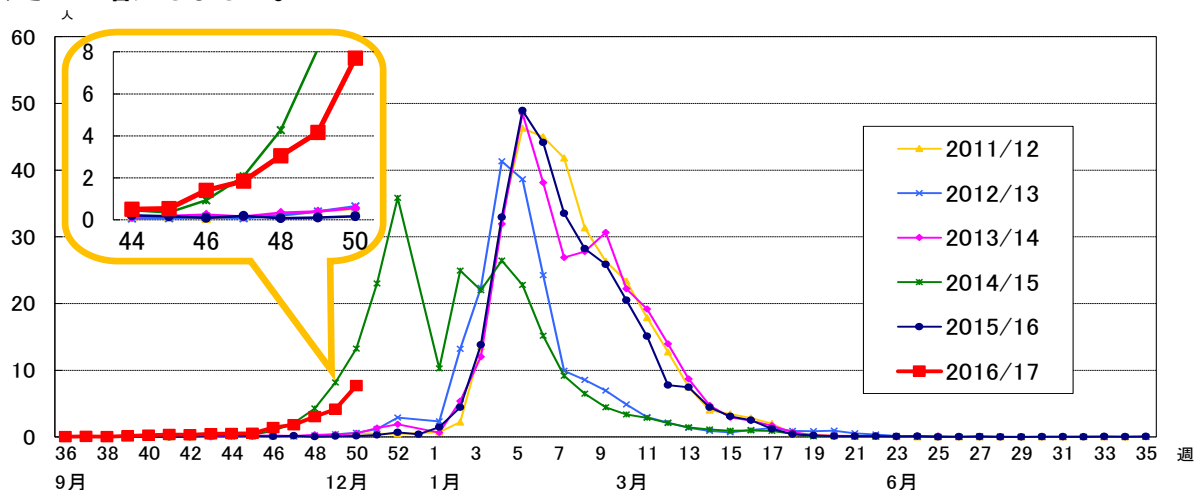
学級閉鎖の発生は第50週までに今シーズン合計で42件報告されています(主に小・中学校)。また、**医療機関、高齢者施設内での集団発生**の報告もあり、手洗い、マスク着用の徹底といった施設内感染予防策や面会者等による外部からの持込みについても注意が必要です。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策※²が重要です。

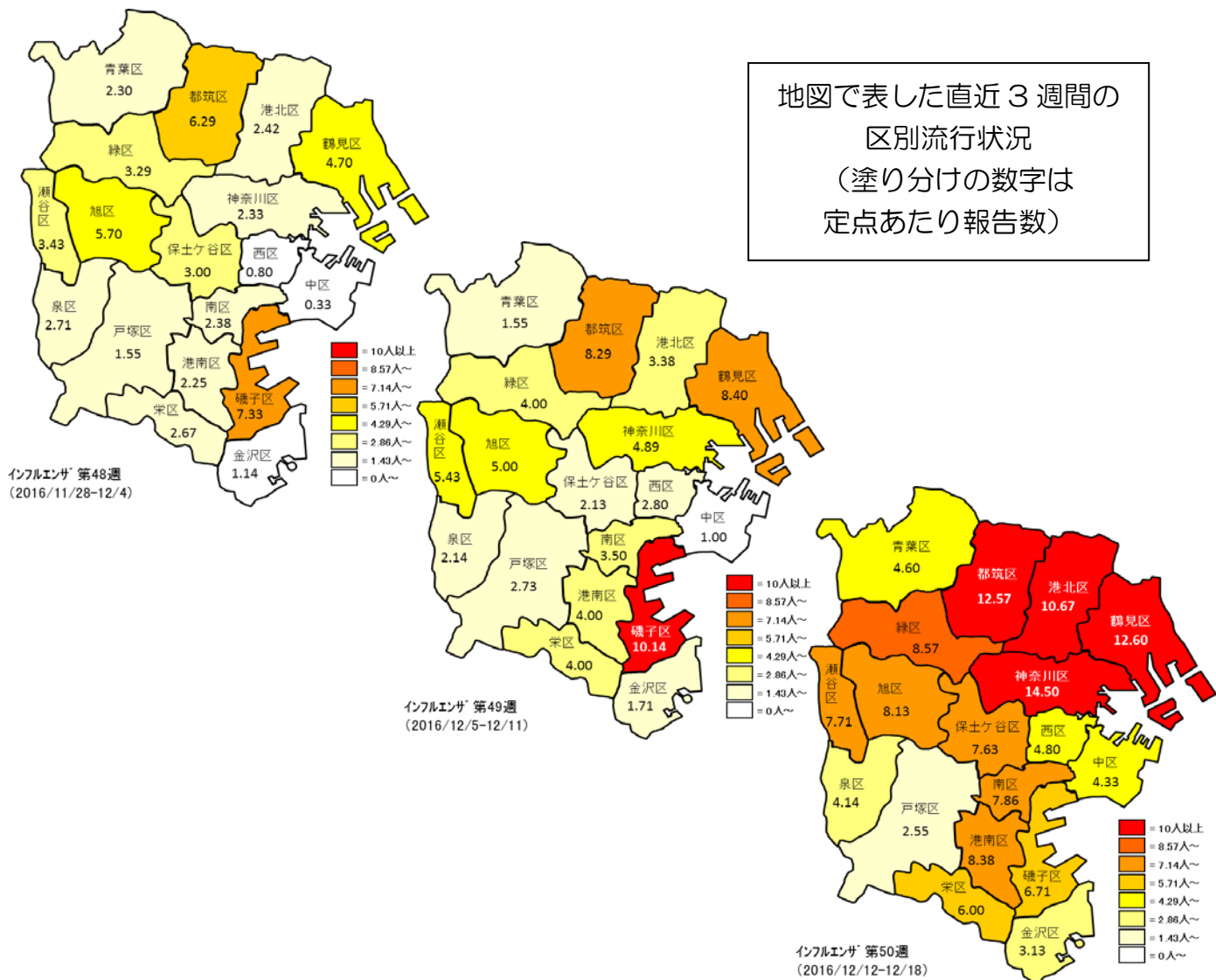
※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、2016年第50週で7.71と、前週4.16よりさらに増加しました。

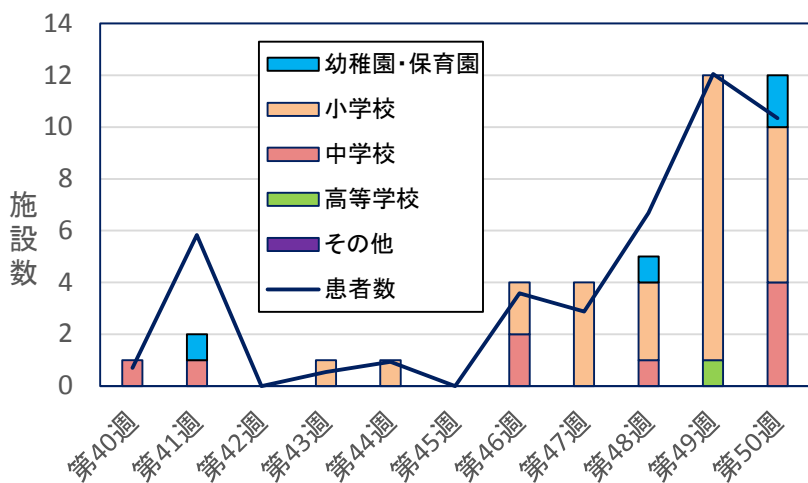


2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

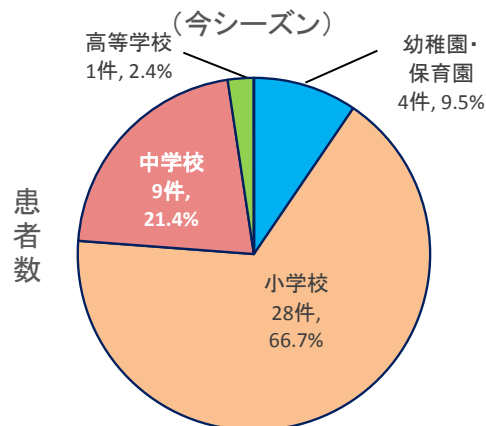


3 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第 50 週までに 42 件が報告され、報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザのような症状のある人数の合計)は延べ 560 人となっています。今シーズンに学級閉鎖等を行った施設の累計は、小学校 28 件(66.7%)、中学校 9 件(21.4%)、幼稚園・保育園 4 件(9.5%)、高等学校 1 件(2.4%)となっています。第 50 週の 12 件は、幼稚園・保育園 2 件、小学校 6 件、中学校 4 件でした。

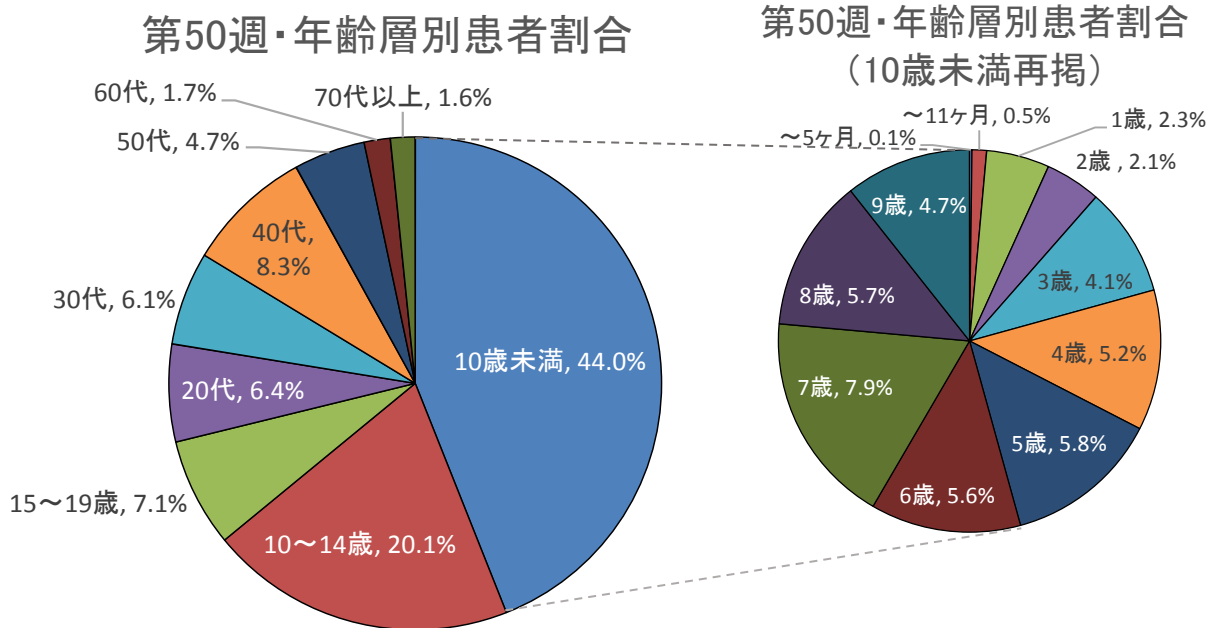
学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



学級閉鎖等の施設の状況

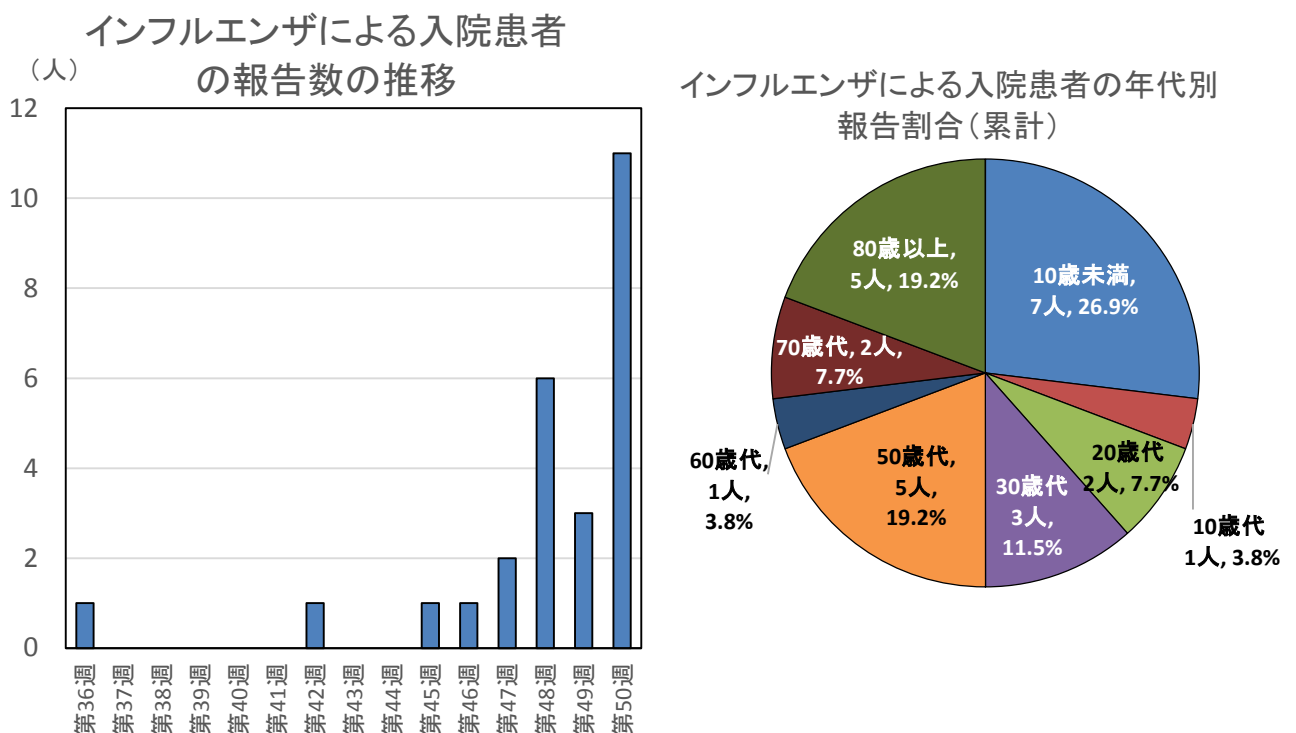


4 年齢層別集計:第 50 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 44.0%、10 歳以上 15 歳未満が 20.1%を占めており、小学校や中学校での感染予防が重要です。



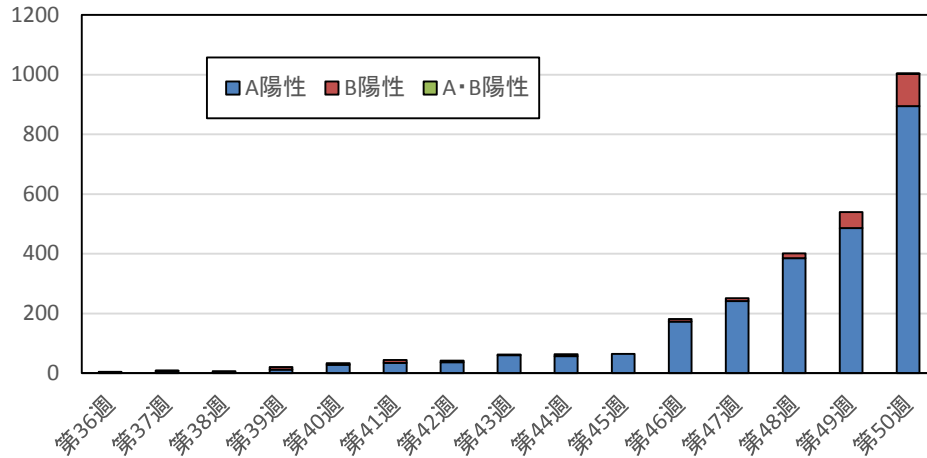
5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※3}におけるインフルエンザ入院患者は増加しており、第 50 週までの累計で 26 人となりました。うち、10 歳未満が 7 人、70 歳以上が 7 人となっており、小児と高齢者が多くを占めています。

※3 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

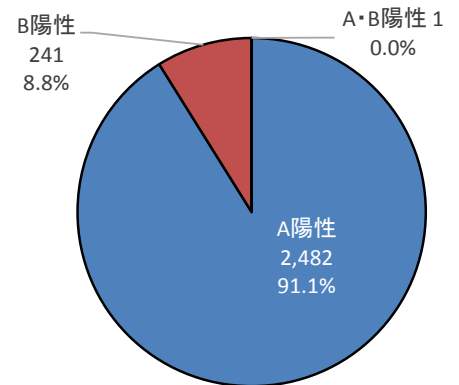


6 迅速キット結果:今シーズンの迅速キットの結果の累計は、A型 91.1%、B型 8.8%、A・B型ともに陽性 0.0%で、A型が多く検出されています。第50週の結果はA型 895人(89.1%)、B型 108人(10.8%)、A・B型ともに陽性 1人(0.1%)で、第48週以前と比べてB型の割合がやや増えています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



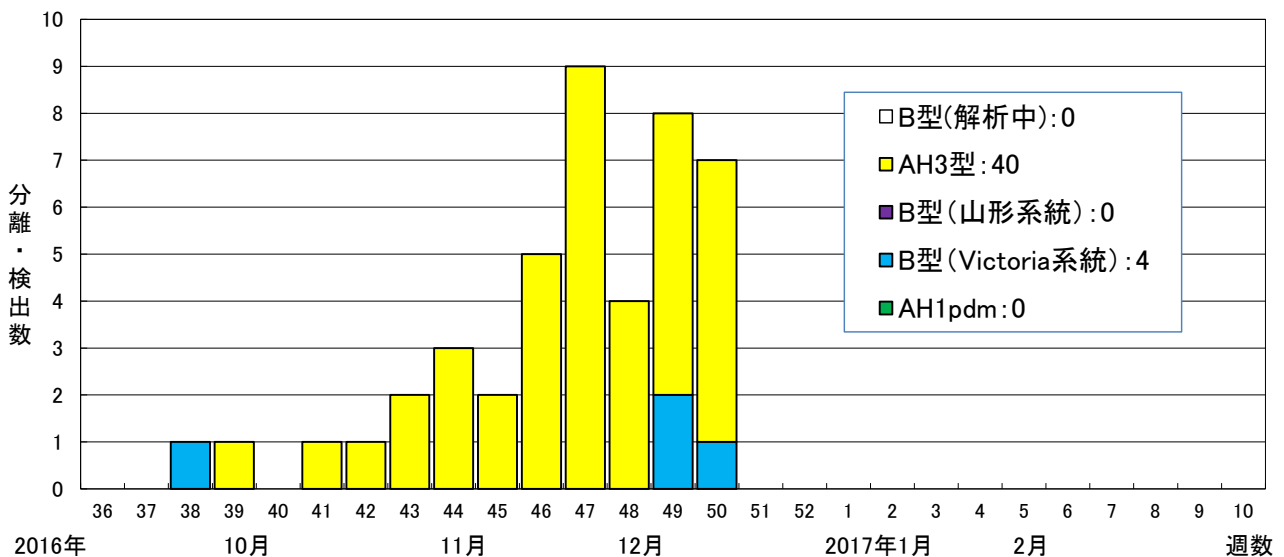
迅速診断用キットによる型別
報告状況(今シーズン累計)



7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から AH3 型が最も多く分離・検出されており、全国状況^{※4}と同様です。

※4 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(2016年12月21日現在)



※参考リンク

近隣自治体の流行状況

- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237